



☆☆（聖書入門.com より）本物の燭台は失われて実際はどんな形態なのかわからない

- 材料：純金（神様の神性を表す金属）34キロ
- 大きさ：規定されていない（神様の光は無限で無制限に与えられる）
- 槌で打ってつくる（イエス様もこの地上で打たれることの予表）
- 木のデザイン：三位一体の神様の本質を表す（土台：父なる神、幹：御子イエス様、  
ともしび：聖霊、枝：神の民）
- アーモンド：御子イエス様の死と復活の予表、神の民の復活の予表

父なる神様のご計画とその成就を期待して待ち望むメッセージ

- 燭台のともしびが照らすもの：神への祈りを表す香壇、神様との交わりを表すパンの置かれた  
机、神様のご臨在への道である至聖所への垂れ幕
- 純粋なオリーブ油：聖霊の象徴。イエス様ご自身が砕かれ、燭台の光となられた。

イエス様が十字架で死なれた時、垂れ幕が裂かれ、燭台は至聖所を照らした。

天地を創造され人間をお造りになった神は、人間をご自身と共に歩み、ご自身と共に生きるように造られた。しかし、その関係は罪によって断絶された。神は歴史を通して、罪によって断絶された関係の完全な回復を目指して、「人類の救いの計画」を進めておられる。その計画の第一歩がイスラエルの民を「神の民」として区別し、神がどのような方なのか神への知識を教え、また具体的に神と共に歩む生き方を教えられた。神が作るように命じられた「幕屋」には、神のご性質や将来地上に送られる救い主を指し示す型が表されている。その一つ「燭台」にも、神様のご性質、神様が将来計画されている救いの計画が預言されている。

(燭台の絵参照)

2026年に生きる私たちは、すでに御子イエス様の贖いの業を知っている。燭台に込められた預言が成就した時代に生かされている。かつては幕屋の中にお住まいになり、神の民と共に歩んだ神が、今や人種を超え神を信じる人を神の民とし、その人の内にお住まいになって、共に歩んでくださる段階まで、神の救いのご計画は進んだのである。私たち自身が幕屋（神の宮）となり、神はその中に、燭台の光を置かれたのである。私たちは、自分の内に置かれた燭台から目を離さないで、命の源である方を土台に、御子につながり、神のご計画の完成への希望を持ち、聖霊を注いで光を輝かせていただけるようにしたい。また、私たちの燭台の光が、神と共に生きる喜び、幸い、また神のご臨在と真理への道を照らすことができるようにと祈りたい。